

## 防災歳時記 (3)

# —立木が泣く—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清治

### 日本の最寒地

北海道北部の稚内より 100km ほど南に音威子府という村がある。酪農と畑作が盛んで、林業資源も豊かである。木工インテリア科もあるユニークな高等学校もある。

音威子府(おといねっぶ)とは、アイヌ語で“川口のにごる川”という意味だそうだ。

日本の最低気温のランキングは

- ① 美深(びふか) -41.5℃(1931. 1. 27)
- ② 上音威子府 -41.3℃(同日)
- ③ 母子里(もしり)-41.2℃(1978. 217)
- ④ 旭川 -41.0℃(1902. 1. 25)

これをみると、旭川から北のほぼ100km圏内は日本の最寒地と言える。

道なき道を毎日歩き、特に冬は一帯の雪原を探り足で通いました。

物心のついたころ、立木がバーンという音がして立ち割れたと聞きました。しばらく経ってから山へ行ってその原木を見たところ、トドマツが眞つ二つに割れていました。その後、注意深く観察したら、気温がマイナス30℃以下ぐらいになれば毎度割れることがわかり、いまではほとんど気にならなくなりました。」

生きたトドマツなどの大木が立ったまま、はじけるような音をして裂ける現象を「凍裂」と言う。地元では「立木が泣く」と言う。北海道の陸別町や母子里などでも、明け方

### 立木が泣く

音威子府の元村長の中原彰さんから、かつて次のような便りを頂いた。

「私は45年前までは、上音威子府に住んでいて、小学校へは5km、高等科のある音威子府までは10km



写真1 音威子府の市街地

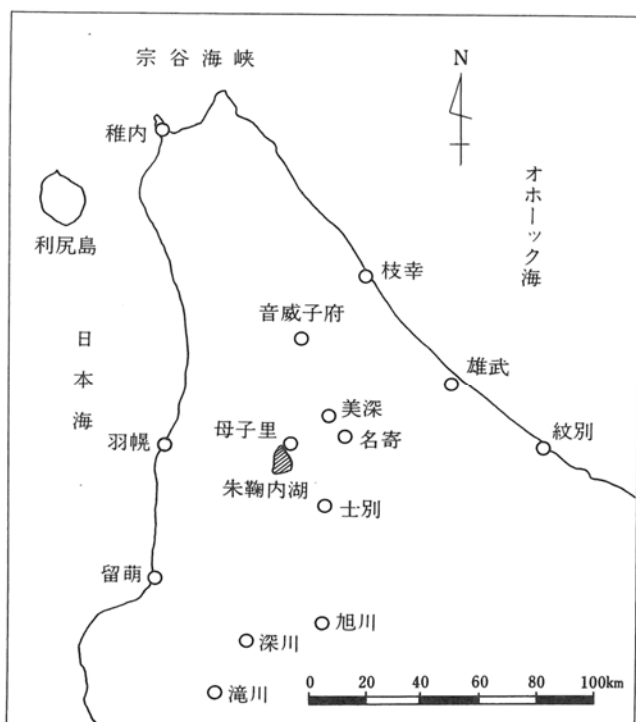


図1 北海道北部

## 最寒地のモニュメント

旭川と音威子府の中間地点に朱鞠内湖がある。風光明媚な湖だが、積雪が平均して2.5mを超す豪雪地帯でもある。湖畔の丘の上に「日本最寒の地:昭和53年(1978)2月17日幌加内町母子里でマイナス41.2度を記録」というモニュメント(記念碑)が建っている。

湖のごく近くの母子里では、厳寒のときは冷蔵庫が転じて温蔵庫になる。冷蔵庫は冷やすためのものでなく、凍らせないための必需品である。人々は雪を掘り、ムシロにくるんだ野菜を雪に埋めて保存し、水を絶え

間なく流した水槽に牛乳カンを浸し牛乳の凍結を防ぐ。冬の暮らしには、なみなみならぬ苦労があるが、最寒地であるという誇りもある。

に気温が約25℃以下に下がるとこのような現象がみられる。

長野県の天気のことわざに、

- 冬に材木の割れる音がするときは寒気が激しい
- 冬に家の柱などの材木が突然音をたてるときは寒気が激しく晴れる

本州の長野県などでも、マイナス15℃以下に冷え込むときは家などの建築材がみしみし音をたてたり割れたりすることがある。これを「家鳴り(やなり)」と言う。それにしても北海道では、生きた立木が割れるというのだからすさまじい。



写真2 美深町の市街地



写真3 「日本最寒の地」のモニュメント

母子里は周囲が高さ数百 m の山に囲まれた盆地にある。快晴無風の夜、放射冷却で冷やされた空気が盆地のナベ底にたまり、寒さが一層厳しくなる。

マイナス 30℃以下のそんな日、空気中の水蒸気が凍って、太陽に反射し、いわゆるダイヤモンド・ダスト(細氷)となって輝く。

世界で一番寒い所(寒極)は、日本の北方のロシア連邦・サバ共和国にあるオイミヤコン(63° N143° E)という町である。ここにも世界一寒い町を誇りにしたモニュメントが建っている。「1933年2月6日にマイナス71度2分の世界一の寒さを記録した」と書いてある。

「鉄をも割れるという厳寒のとき、小用は大丈夫かと尋ねられた。マイナス 60℃で体験した結果、全く異常がなかった。しかし機敏に行わないと恐らく危ないのではないだろうか。金属のチャックを素手で触ると、たちまち凍傷になるので細心の注意が要る」とは、オイミヤコンを訪れたNHKカメラマンの話。

### 女が髪を洗うと火事が多い

昔の天気のことわざである。・北西の季節風が吹くと、日本海側では雪が降り続くが、太平洋側では晴天が続き空っ風が吹く。空気がカラカラに乾いて、風がホコリを巻き上げる。ホコリのため女性たちが髪をよく洗うのを見て、われわれの先祖は火の用心に意を用いたのである。先人の鋭い観察である。

2月初めの立春が過ぎても、2月半ばを中心に寒さの厳しい日が多い。寒さや火災に対する備えも十分にしたい。